A25 ベトナム北部産ケブカクロバエの卵巣休眠

○倉橋 弘（感染研，昆虫医科学部），主藤千枝子（感染研，昆虫医科学部）

Ta Huy Thinh（ベトナム生態・生物資源研，昆虫生態学部）

Ovarian diapause in the northern Vietnamese colony of *Aldrichina grahami*

Kurahashi, H., Shudo, C. and Thinh, T. H.

ケブカクロバエ *Aldrichina grahami* (Aldrich)は東アジア原産で、日本にも広く分布しているクロバエである。日本では春、秋に多く見られるが、夏季低地から姿を消し、高地に移動して卵巣休眠状態で越夏することが知られている。しかし、本種の大陸における生態はよくわかっていない。今回本種の分布の南限にあたるベトナム北部ラオカイ省 Sapa（標高 1,500 m）市内で 1999 年 6 月に採集された 1♀由来のラボラトリーコロニーが得られたので、それを使って卵巣休眠誘導実験を行った。9L から 16L の 1 時間間隔の異なる 8 種類の日長の下で卵から成虫まで飼育し、羽化成虫に豚レバーを与え卵巣の発育を見たところ、日本産の（東京）のコロニーと類似した長日域で卵巣休眠を示す光周反応が観察された。ただ長日域（15L）での休眠率は 83%と日本産（100%）にくらべ低かった。Sapa では夏季でもかなりの雌が卵巣発育し、産卵可能であると同時に成虫の標高差移動も少ないことが考えられる。本種の分布の北と南のコロニーから得られた結果から本種の亜熱帯起源説を考察してみた。

A26

日本産ユスリカ類の分類と分布に関する私共の最近の見知

佐々 学 環境福祉研究所

Recent studies on Chironomidae of Japan

Manabu Sasa

佐々 学（1998）の日本産ユスリカのまとめ”Chironomidae of Japan”の刊行の後、南西諸島、小笠原、九州一円などのユスリカについては、主として鈴木博氏の採集と標本作成、四万十川については更に酒井哲夫氏、猪苗代湖については更に鬼多見賢氏、利根川については田中伸久氏の採集と標本作成の協力を戴いて、ユスリカ雄成虫についての分類記載をおこない、おびただしい新知見を加えた。それらには、予想以上の数に新種、未記録種も含まれ、日本産ユスリカの種類は既に 1,000 種を超える事になった。それらの記載、分布、整理、検索表の作成などに当たっており、2000 年 3 月には原稿にまとめる予定である。